

自動走行車による解決可能な行政課題について

- 実証エリアにおいて、自動走行車を活用することにより解決できる行政課題についてご記入ください。
- 交通不便地対策、高齢者対策など複数テーマがある場合は、それぞれご記入ください。

市町村名 幸田町

テーマ 交通弱者と町の拠点をなめらかにつなぐまち

豊かな自然環境と優れた道路・鉄道網を有する幸田町は、積極的な企業誘致による産業集積と土地区画整理事業等によるコンパクトな市街地整備等を背景に、若い世代の転入が進み、日本全体の人口が減少するなか、町の人口は依然増加傾向にあり、町全体の高齢化率は県内市町村に比べ低い数値となっている。

しかし、人口動向と高齢化率を町の行政区ごとにみると、住宅地整備等により若い世代の転入が多い行政区では人口が増加し高齢化率も低いが、一方、農業等を生業とする既存集落を中心とした行政区では若い世代の流出による人口減少と高齢化が進行しており、人口の増加地域と減少地域、高齢化率の高い地域と低い地域の二極化が問題となっている。

今回、提示する実証実験コースに含まれる永野地区は、既存集落に該当し、高齢化により自ら運転することができず、また家族による送迎も期待できないことから、外出が困難な交通弱者の増加とそれに伴う地域の活力低下が懸念され、いかに交通弱者の外出をサポートするかが地域の課題となっている。

本町においては、地域の足となるコミュニティバスを運行しているが、厳しい財政制約のもと、交通弱者の多様な外出ニーズを満たすサービス水準を確保することは困難であることから、外出時間の選択やルート設定の自由度が高く、安全に移動できる自動走行車の活用に期待しているところである。

自動走行車の実証実験では、まずは、町の拠点であり交通結節点でもある「相見駅」と永野地区の拠点である「永野ちびっこ広場」を結ぶルートを想定する。家に近い「地区の拠点」まで歩けば、「町の拠点」まで確実に移動できる手段を確保することで、交通弱者の外出を安全にサポートする。

次のステップでは、総合戦略で位置づけている児童館などを活用した「第3の場所（サードプレイス）」などの拠点施設へのアクセスも可能とすることで様々な人々の出会いや地域間交流を創出し、地域の活性化・発展につなげ、最終的には「好きな時に、好きな場所へ自由に行ける」状態に近づけていきたい。

そして、このような自動走行車を活用した取り組みにより、交通弱者の活動範囲が広がるとともに、様々な交流が促進されることで心と身体の健康が保たれ、高齢者も元気に活躍できる社会を築いていく。

さらに、自動走行車において製作される3Dマップデータを用いて、高低差等のデータなどから経路ごとの運動量等を算出し、歩く道の健康レベル診断及び高齢者や子どもが安心して効率よく運動、散歩できるルート検索ができるシステムを開発することで町民全体の健康増進をはかり、社会保障費の抑制につなげていきたい。



案①

自動走行車の実験走行ルート案①

- 1 区 間：相見駅 ⇄ 永野ちびっ子広場
- 2 地理条件：高齢化が進む集落と駅、ショッピングセンター等の集積地
コミュニティバスルートあり
- 3 道路条件：走行ルート約2.3km
白線は明確
全線片道1車線道路
路側帯あり（一部歩道あり）
駅周辺以外の人通り殆どなし
横流入車両は殆どなし
トンネル区間なし
- 4 そ の 他：関係者との調整協力可能

【車両待機場所】

- ・駅前広場
- ・ちびっ子広場東

実験走行ルート案① 写真



待機場所：相見駅 駅前広場



永野ちびっ子広場

